

トラック輸送情報（平成23年5月分）

平成23年8月11日

国土交通省 総合政策局 情報政策本部 情報政策課 交通統計室

担当：中倉 内線28721

直通：03-5253-8347

ホームページ：<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の概況

調査対象26社の本月の輸送量は、4,902,445トンで、前月と比べ総輸送量が約60万トン減少したため、前月比89.1%（季節調整済み100.3%）となり、前年同月との比較では、約7万トン増加したため、前年同月比101.4%の実績であった。

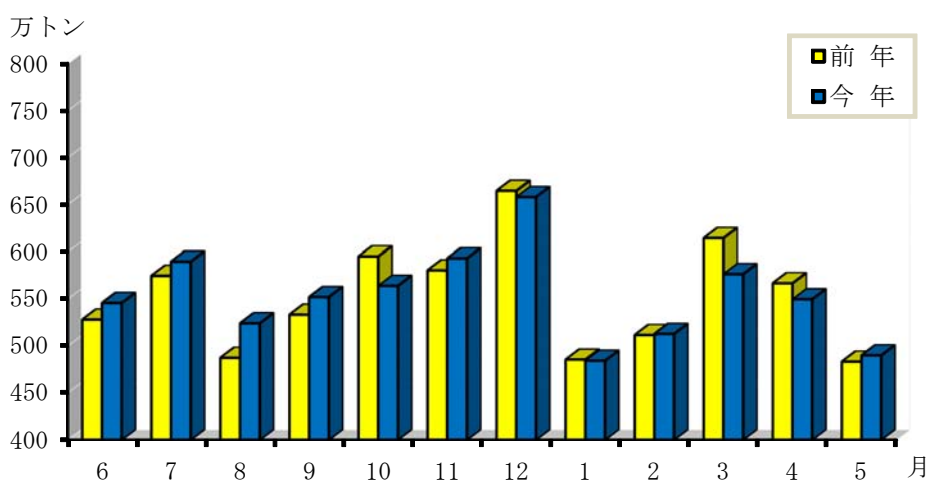
なお、平均稼働日数は21.3日で、前月と比べ2.9日減少し、前年同月との比較では、0.9日減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、230,162トンで、前月と比べ約3千トン増加したため、前月比101.3%となり、前年同月との比較では、約12千トン増加したため、前年同月比105.6%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

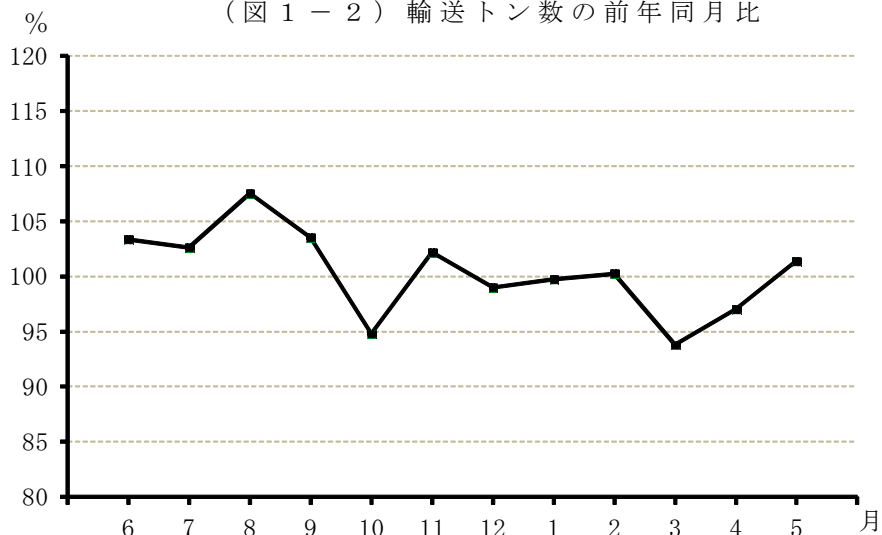
注）平成22年7月から貨物輸送の調査対象については、1社減り、26社となった。

前月比及び前年同月比は、26社ベースで比較している（図1-1及び図1-2は26社ベースで作成）。

（図1-1）輸送トン数の推移



（図1-2）輸送トン数の前年同月比



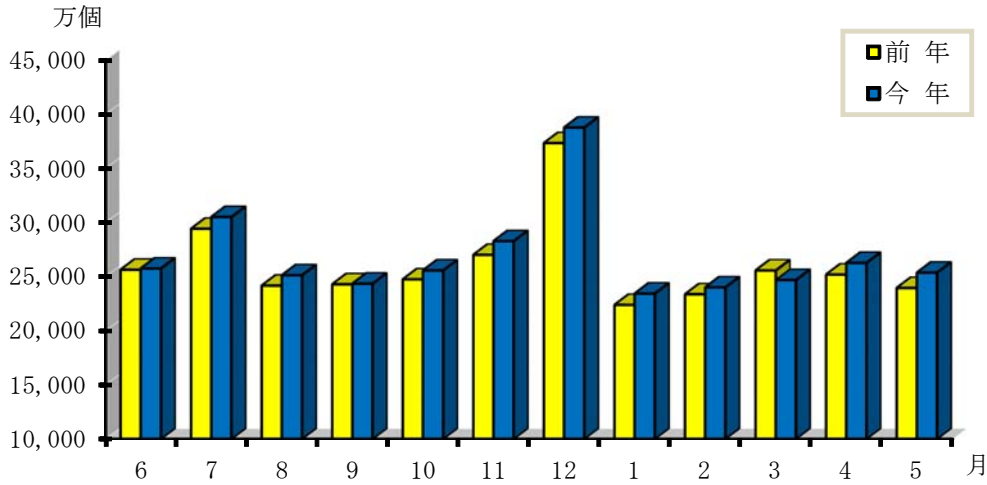
(2) 宅配便の概況

調査対象 17 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、253,808 千個で、前月と比べ 約 902 万個減少したため、前月比 96.6% (季節調整済み 100.7%) となり、前年同月との比較では、約 1,414 万個増加したため、前年同月比 105.9% の実績であった。

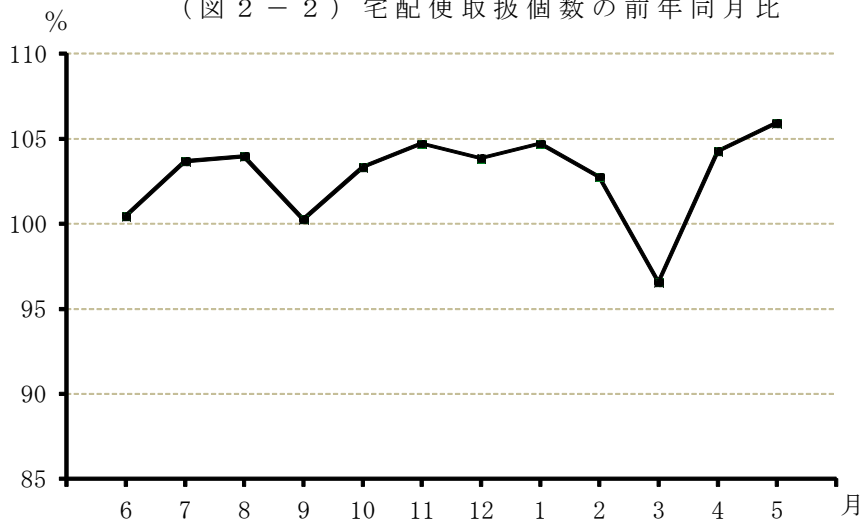
(図 2-1、図 2-2 参照)

注) 平成 22 年 7 月から宅配便輸送の調査対象については、事業承継により 1 社減り、17 社となった。

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 27 社(26 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社)の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、すべての品目で輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。減少要因としては、季節的需要減がすべての品目に共通して見られたほか、工場・生産地からの貨物減が「金属製品」、「化学工業品」、「繊維工業品」、「食料工業品」、「日用品」で見られ、「食料工業品」、「日用品」は全国的な減少が見られた。

前年同月と比べると、倉庫から出る貨物増により「化学薬品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、景気の影響による貨物減等が「農水産品」、「金属製品」、「機械」、「食料工業品」、「日用品」等で、工場・生産地からの貨物減が「食料工業品」、「日用品」等で見られたと回答する事業者があった。「日用品」の主な減少地域は、東北、関東地方、九州等であった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 27社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因	
	著 増	増	変 ら ず	減	著 減				
前 月 に 比 べ て	農水産品	1	1	11	3	2	中国 東北、関東	8	
	金属製品	1		12	7	1	関東地方、中部地方	4, 8	
	機械	2	2	7	9	1	東北、関東地方、北陸信越、大阪、近畿	7, 8	
	化学工業品			10	11	1	合成樹脂、その他の化学工業品	東北、関東地方、愛知、中国	4, 7, 8
	繊維工業品			17	4	1	神奈川、関東	4, 8	
	食料工業品			6	11	3	製造食品、飲料	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、福岡	4, 7, 8
	日用品		2	6	11	3	書籍・印刷物、その他の日用品	北海道、東北、関東地方、中部地方、近畿地方、中国、九州、全国	4, 5, 8
	その他	1	3	9	7	2	その他(百貨店配送品)	関東、中国、全国	8
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	2	1	12	2	1	東北、関東	9	
	金属製品		4	13	4		その他の金属製品	9	
	機械		4	11	5	1	機械部品	東北、東京、関東、中国	9
	化学工業品		6	13	3		合成樹脂	北陸信越 関東	7
	繊維工業品		4	15	3				7
	食料工業品		4	11	5		福岡	4, 9	
	日用品		5	10	5	2	書籍・印刷物、衣服、その他の日用品	東北、関東地方、九州、全国	4, 5, 9
	その他	2	6	8	4	2	関東、中国	4, 9	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者806社/調査対象事業者数1,050社)の輸送量は、前月比 98.3%、前年同月比 102.8%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	102.8 %	111.6 %	98.7 %	103.6 %	101.6 %	92.8 %	100.2 %	98.9 %	106.1 %	100.9 %	120.5 %	
前 月 比	98.3 %	105.4 %	102.8 %	95.7 %	92.8 %	96.5 %	92.3 %	94.9 %	92.5 %	93.9 %	116.8 %	

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況(各運輸局より回答のあったもの)

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比105.4%、対前年同月比111.6%であった。品目別では、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」、「工業用非金属鉱物」、「セメント」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。一方、季節的需要減により「取り合わせ品」、「日用品」、「動植物性飼・肥料」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送の見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比102.8%、対前年同月比98.7%であった。品目別では、東日本大震災の影響等により「木材」、「機械」、「セメント」等の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。一方、天候の影響により「野菜・果物」の輸送量が、また、東日本大震災の影響により「紙・パルプ」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい傾向、以降については増加傾向が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比95.7%と減少し、対前年同月比103.6%であった。品目別では、季節的需要減等により「取り合せ品」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比92.8%、対前年同月比101.6%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増等により「その他の製造工業品」の輸送量が増加したとする事業者があった。一方、季節的需要減等により「揮発油」、「化学肥料」、「食料工業品」等の輸送量が、景気の影響による貨物減等により「紙・パルプ」等の輸送量が減少したとする事業者が多かった。今後の輸送の見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比96.5%、対前年同月比92.8%であった。品目別では、「砂利・砂・石材」、「その他の窯業品」、「その他の石油製品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比92.3%、対前年同月比100.2%であった。品目別では、得意先の稼働増により「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、デパート・スーパーからの需要減により「野菜・果物」の輸送量が、ゴールデンウィークによる稼働日数減により「非鉄金属」、「機械」等の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比94.9%、対前年同月比98.9%であった。品目別では、東日本大震災の影響により「食料工業品」、「その他製造工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。一方、季節的需要減により「取り合せ品」が、また景気の影響等により「機械」、「化学薬品」等の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送の見通しは次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比92.5%、対前年同月比106.1%であった。品目別では、建設関係や工場・生産地の需要増により「その他の化学工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。一方、稼働日数の減少等により「機械」、「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比93.9%、対前年同月比100.9%であった。品目別では、季節的需要増等により「その他の農産品」、「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、天候の影響等により「金属製品」が、建設関連の需要減等により「木材」、「砂利・砂・石材」、「機械」、「廃棄物」が、季節的需要減等により「その他の石油製品」、「日用品」、「動植物性飼・肥料」等の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。今後の輸送見通しについては、次月は横ばい傾向、以降については減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比116.8%、対前年同月比120.5%であった。品目別では、輸出入貨物増により「木材」、「金属くず」が、商社・問屋からの貨物増により「紙・パルプ」が、季節的需要増により「取り合わせ品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「穀物」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送の見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
品目		海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	国
		道	道	道	信	部	畿	国	国	州	縄	計
1. 穀物	増	1	2		1			2				6
	減		4							1	1	6
2. 野菜・果物	増				1			1	6			8
	減	1	3				1	2	6			13
3. その他の農産品	増	1						1	2			4
	減	1										1
4. 畜産品	増	1	1					1	1			4
	減											
5. 水産品	増	1			1	1						3
	減	1	1					1	1			4
6. 木材	増	1	3		1					1	1	7
	減	3	1					1	4			9
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増	2	1		1							4
	減	1										1
9. 金属鉱物	増					1				1		2
	減					1						1
10. 砂利・砂・石材	増	11	1					1	1			14
	減	4			1	3		2	3			13
11. 工業用非金属鉱物	増	5	2					1	1	1		10
	減									1		1
12. 鉄鋼	増		1		2			1	2			6
	減	1			3			2	1			7
13. 非鉄金属	増							1				1
	減				1	1			1			3
14. 金属製品	増	1			1	3						5
	減	2	1		1	3	2	2	2			11
15. 機械	増	1	4	1	2	2	1	1		4		16
	減		1		2	2	2	4	3	10	1	25
16. セメント	増	4	3		1	1				2		11
	減				1	2		1	2			6
17. その他の窯業品	増	1	1							1		3
	減	2			1	2	1	1	2			9

運輸局		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		品目	増	減	増	減	増	減	増	減	増	減
18.揮発油	増		1							1		2
	減	1	1		3			1	1	1		8
19.その他の石油製品	増	1										1
	減	2	2		2	2	1	1		2		12
20.コークス・ その他の石炭製品	増											
	減											
21.化学薬品	増											
	減	1			1		1	2	1	1		7
22.化学肥料	増	2						1				3
	減	1	1		3							5
23.その他の化学工業品	増							1	3			4
	減		1		1	1						3
24.紙・パルプ	増						1	1	1	1	1	5
	減	1	2	1	2	1	1			2		10
25.繊維工業品	増				1				1	1		3
	減				1					1		2
26.食料工業品	増	1	3	1	2		2	6		7		22
	減		3		4		1	3	2	4	1	18
27.日用品	増		1	1				1	1	3		7
	減	2		1	1		1	1		7	1	14
28.その他の製造工業品	増	1	4		2			3		1		11
	減		2	1				1		1		5
29.金属くず	増										1	1
	減											
30.その他のくずもの	増	1										1
	減											
31.動植物性飼・肥料	増	2	2	1						1		6
	減	4	3					2		4		13
32.廃棄物	増	1	2									3
	減	1								3		4
33.輸送用容器	増	1			1				1			3
	減									2		2
34.取り合せ品	増		1					1		1	1	4
	減	2	2	3				3	1	1		12
35.その他	増	1	1	1	1	1	1	1				7
	減	1		3	3	1	1	2	1		2	14